



4月14日

五毛座で伝統の歌舞伎公演

飯地町にある地芝居小屋「五毛座」で歌舞伎公演が行われました。五毛座地歌舞伎公演は隔年4月に開催されており、29回目となる今回は笠周(りっしゅう)地域(笠置町、中野方町、飯地町)の三町連携事業として開催しました。

演目は中学生4人と小学生7人による飯地子ども歌舞伎が『墓妖術瀧夜叉姫(がまようじゅつたきやしやひめ) 筑波山岩屋の場』、飯地五毛座歌舞伎保存会が『絵本太功記十段目(えほんたいこうきじゅうだんめ) 尼ヶ崎閑居の場』、笠周三町名士が『白浪五人男 稲瀬川勢揃(そろ)い』を披露しました。



4月8日

大正村で和装洋装の着こなしコンテスト

明智町の明智文化センターで「き・も・の in 大正村」が開催されました。着物を着る機会が少なくなり、家に眠っている着物を着る機会を作ろうと始まったこの催し。4回目からは和装や洋装の着こなしを競う「モガ(モダンガール)・モボ(モダンボーイ)コンテスト」が始まり、県内外から注目されるようになりました。コンテストには、岐阜・愛知両県から30人が参加。市内からも8人が参加しました。最高賞となる「きもの in 大正村賞」を受賞したのは、愛知県春日井市から参加の広安かなさんと名古屋市から参加の松井千夏さんの二人同時の受賞となりました。



4月6日

だるまに思いを込め交通安全を祈願

春の全国交通安全運動の初日に、市交通安全女性連絡協議会の会員4人が市役所を訪れ、大交通安全祈願だるまを寄贈しました。同協議会で副会長を務める田口千里さんは「交通事故はいつ身に降りかかってくるかわかりません。新年度になり、子どもたちの登下校を親は心配していると思います。みんなが交通事故に遭わないよう、家族で声を掛け合って子どもたちを送り出したいものです。交通死亡事故がゼロになるよう、みんなでがんばっていきたいです」と抱負を語りました。寄贈されただるまは、市役所本庁舎の1階ロビーに飾られました。



4月1日

「半分、青い。」のラッピング列車登場

4月2日から始まったNHK連続テレビ小説「半分、青い。」をPRするため、市と中津川市を走る第3セクター明知鉄道株式会社で、「半分、青い。」のメインビジュアル(NHK「半分、青い。」ウェブサイトのメインページ)をあしらったラッピング列車が運行することになりました。「半分、青い。」は明知鉄道沿線の岩村町本通りなどで撮影が行われたため、今回のラッピング列車運行となりました。運行期間は9月29日まで。一日4~5回、恵那駅から明智駅までの間を往復します。ラッピングは主人公の榎野鈴愛役の女優永野芽郁さんが大きくデザインされています。



4月15日

雨の中を力走した恵那峡ハーフマラソン

武並町にある岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場を発着地点に、恵那峡ハーフマラソンが開催されました。今回の大会はハーフマラソンコースと3キロロードレース、3キロジョギングコースの3部門に合わせて3,279人がエントリーしました。

遠来賞として、東は岩手県釜石市から参加した佐々木良衛さん、西は長崎県長崎市から参加した金光敏行さんでした。大会運営も各種団体の関係者をはじめ、地元の大学生や高校生、中学生ら多くの市民ボランティアが支えました。走り終えたランナーにはおにぎりや豚汁、おしるこが無料で振る舞われました。



4月13日

くしはら温泉ささゆりの湯オープン

平成29年10月からリニューアル工事を行っていた「くしはら温泉ささゆりの湯」が工事完了に伴い、リニューアルオープンをしました。これまでと同様に木を基調としたデザインとし、外壁の張り替えや門、雨天時の雨よけなども新設し、利便性も向上しました。待ち時間にスイーツや飲み物を手軽にリラックスしながら楽しめるような空間として、テイクアウトコーナーを新設しました。露天風呂からの山間の眺望をより楽しんでもらえるよう、東西の露天風呂の数を増設しました。東の露天風呂からは山間の眺望を、西側露天風呂からはきれいな夕日が沈む眺望が楽しめます。



4月7日

さくらまつりで恵那峡の春を満喫

恵那峡ささなみ公園で、恵那峡にぎわい実行委員会の主催で「恵那峡さくらまつり」が開催されました。今年は暖かな陽気で、例年より早い満開を迎えたため、桜はほとんど散ってしまっていたのですが、2日間で約2,000人が訪れ、恵那峡の春を楽しみました。恵那峡さくら茶会や恵那峡周辺の事業者らが栗菓子や地元野菜などを販売する恵那マルシェがあり、多くの来場者でにぎわいました。恵那峡一帯を見渡せるどんぐり広場では、福沢桃介像の傍らに、今年2月に植樹されたハナモモが早くも開花。子ども向け遊具も新たに設置され、家族連れらが楽しみました。



4月1日

市消防団入退団式で決意新たに

市消防団入退団式が恵那文化センターで行われ、平成30年度の市消防団の体制がスタートしました。消防団員や関係者ら550人が参加し、新入団員や昇任者へ辞令が交付されるとともに、退団者が紹介され、長年の貢献に感謝の花束が贈られました。本年度は46人が入団、97人が退団し、消防団員数は1,022人となりました。これに機能別消防団員を合わせると1,215人の規模となりました。式典では、安藤克己消防団長から新入団員の辞令を受けた岩村分団の安藤賢希(けんき)さんが、消防団員として忠実に活動を行うことを宣誓しました。